
ため息

なとりうむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ため息

【Nコード】

N0011Q

【作者名】

なとりうむ

【あらすじ】

ため息がこぼれるのは、どんな時？

(前書き)

連作

ため息を吐くと幸せが逃げる。

オレほどこの言葉を聞いて育った奴もいないだろう。

ガキの頃から変に大人びていた為か、他人よりも回数が圧倒的に多かった。

特に、誰かに振りまわされている頃は。

「どうした？」

「うん？」

「考え事のようにだが？」

「まあ、な」

理不尽だと思う度。

不条理なことを知る度。

何かを、諦める度。

その度にため息を吐いてきた。

そして、その度に聞いてきた。

「悩みがあるなら聴くぞ？」

「ただの愚痴になる」

「君の愚痴なら大歓迎さ」

「……そか」

いつもとなりにいるから。

「どうしたんだ？」

——ねえ

「いや」

——ぼくは

「変な奴だな」

——いつもきみがいるから。

「……はあ」

——ためいきがつけるんだよ。

いつからこんな事を思うようになったのか。

「ため息を吐くと幸せが逃げるぞ?」

「そうかもな」

そう言ってくれる人が居るから。

そう言ってくれる人が居たから。

俺は幸せを溢せるんだ。

「でもさ」

それは、いつ頃から気付いていたのか。

「幸せだから出るため息もあるだろ?」

そうして溢した幸せを……

「そうかもね」

一緒に拾ってほしいんだ。

そしたら分け合えるから。

二人だけじゃなく、

「パパー！ ママー！」

「おじさん！ お姉さん！」

「お呼びの様な」

「……おまえ、お隣の子になんて呼ばせてるんだよ」

「君も私の母をそう呼んでいただろ?」

みんなで。

「ほら、行くぞ?」

一つ、ため息がこぼれる。

「はいはい」

幸せを抱いた、ため息が。

（後書き）

連作はこれで終わりです。一応今まで投稿していたものと話はつながっていると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0011q/>

ため息

2011年1月11日21時03分発行